

# 知事からのメッセージ



北海道知事

高橋 はるみ

北海道ふるさと会連合会会報第28号の発行にあたり、ごあいさつ申し上げます。

皆様におかれては、平素より道政の推進にあたり、格別なご理解とご支援を賜り、厚くお礼申しあげます。

さて、現在北海道は、人口減少や少子高齢化が全国を上回るスピードで進行し、経済、雇用情勢は依然として厳しい状況にあるなど、多くの課題に直面しています。

その一方で、全国の北海道物産展や、「上海万博」で9月に「北海道の日」と銘打って開催されました北海道展が盛況のうちに終わるなど、食や観光をはじめとする「北海道ブランド」国内外で大きな広がりを見せるとともに、農工商連携や新エネルギーの導入に向けた取組みが道内各地で展開されるなど、北海道の将来につながる活性化の動きも見られます。

また、10月の初旬に東京都代々木公園で開催されました、北海道ふるさと連合会主催行事「北海道産直フェア」では、私もごあいさつさせていただきましたが、3日間で延べ35万人を超える沢山の方々を足運び、北海道の旬の味覚に舌鼓を打たれ、大変な盛況ぶりであったと伺っています。

道内ふるさと市町村の自慢の品を、対面販売を通じてより多くの方に魅力を伝える、こういった取組みの積み重ねは、必ずや「北海道ブランド」の向上に資するものと確信しています。

皆様からは、これまでも「北海道プラト」の普及、発展に大変なお力添えをいただいております、北海道知事として心から感謝申し上げますとともに、今後一層、北海道の魅力、価値を力強く応援するサポーターとしてご支援いただければ幸いです。

最後になりますが、北海道ふるさと会連合会の益々のご発展と、皆様のご活躍をお祈り申し上げます。私からのメッセージとさせていただきます。

## 出合い再び

新年交礼会華やかに開催

総務部会 高橋 郁夫

平成22年の新年交礼会は、1月16日土曜、快晴の中、明治記念館「富士の間」に於いて会費1万円で華やかに開催されました。来賓として北海道から高橋知事、北海道東京事務所川城所長、北海道新聞社東京支社から島田編集局長がご参列頂きました。又会員では、53のふるさと会から137名、25企業団体から28名計165名のご参加があり円テーブル18カ所という当連合会のイベントとして相応しい会場になりました。

神奈川北海道同人会会長、連合会理事である安部正夫総会司会の発声により開始され、杉村副会長（深川会）から交礼会開催の責任者としての挨拶、連合会伊野達哉新会長（岩内会）が、参集御礼と今後の連合会のあり方等について熱く抱負を語りました。続いて高橋知事、サッポロホールディングス株式会社代表取締役社長、村上隆男様よりご祝辞を頂戴致しました。

次は、安部司会者からご来賓・協賛企業・協力企業からご参加頂いた方々の紹介がありました。引き続き前会長の榎本秀雄様より元気の良いご発声で乾杯を致しました。懇親会となつて間もなく、高橋知事が各テーブルに歩み寄り親しく声掛けをすると共に、記念写真に収まって下さいました。知事は分刻みの忙しいスケジュールの中、全テーブルを回り会場を後にされました。

会場は、大勢の参加者で喚声やら笑い声等、賑やかなうちに経過し、やがて堀口副会長（妹背牛会）を中心に連合会理事役員多数のお手伝いによって「お楽しみ抽選会」が始まりました。景品は各企業・ふるさと会等42団体より14品プラス・アルファーのご提供があり、ハズレの無い程の協力を頂きました。AIRRIDの往復航空券を引き当てた人には羨望の野次が飛んだり、各ふるさと自慢の産品や地酒等を引き当て、皆顔を綻ばせ乍ら受け取っておりました。安部司会者は残り時間を生かして、各ふるさと会から代表者を指名

し、お話をしてもらおうという計らいをし会場を盛り上げました、突然の指名で戸惑う人もありこれも愛嬌と、司会の嗜好に感心しきりでした。

閉会のメは、渡辺副会長（札幌会）が音頭をとって下さいましたが、早散会の時間かと思われた程、短く感じた本年の交礼会でした。本年も参加者には見事なシャケ1本のお土産が用意されており、標津町から取り寄せたものでした。各位、名残惜しくも再会を期しての挨拶を交わし、帰路の人となつておりました。

